国際関連情報　国際会議等

フランス ANC 主催 会計リサーチ・シンポジウムの報告

ASBJ 常勤委員　川西（かわにし） 安喜（やすのぶ）

はじめに

2017 年 12 月 11 日、フランス・パリにてフランスの会計基準設定主体である会計基準局（ANC）主催の会計リサーチ・シンポジウムが開催された。今年は「会計とデジタリゼーション」をテーマに議論が行われ、フランスの学者による論文の発表、論文のテーマについてのラウンドテーブル、及び論文のテーマに関するスピーチが行われた。ラウンドテーブルの参加者やスピーカーとして、日本を含む各国の会計基準設定主体の代表も招かれた。議論はフランス語又は英語で行われ、同時通訳が提供された。

スケジュール

スケジュールは以下のとおりであった。

【開会の辞】
【2015 年及び 2016 年のシンポジウムのテーマのアップデート】
1.「概念フレームワーク：伝統を超えて、ヨーロッパとして動くか」
2.「業績報告：主要な指標についてコンバージェンスは達成可能か」
【会計基準にとってのデジタリゼーションの功罪】
3.「デジタル経済：新しいパラダイム」
4.「財務情報のデジタル化の影響：新しい定義、新しい公表方法、新しい資格制度」
5.「デジタル経済により試される財務情報：新しい取引に新しい概念は必要か」
6.「ヨーロッパの公益とデジタル経済における会計上の課題」
【閉会の辞】

概念フレームワーク・セッション

企業会計基準委員会（ASBJ）は概念フレームワーク・セッションのラウンドテーブルの参加者として招待され、筆者が参加した。

議論の対象となる論文の著者は、前国際会計

基準審議会（IASB）理事の Philippe Danjou 氏と、前 ANC テクニカル・ディレクターの Isabelle Grauer-Gaynor 氏であった。論文の主旨は、欧州指令に示された考え方を含めた、欧州版の概念フレームワークを開発し、これを IASB の概念フレームワークと比較することにより、欧州における IFRS のエンドースメントに予見可能性を持たせてはどうかというものであった。

ラウンドテーブルの参加者は、前述の論文の著者に加え、以下のとおりであった（敬称略、順不同）。

- Liesel Knorr（会計基準設定主体国際フォーラム（IFASS）議長）
- Ann Tarca（IASB 理事）
- Andrew Watchman（欧州財務報告諮問グループ（EFRAG）CEO 兼技術的専門家グループ（TEG）議長）
- 川西　安喜（ASBJ 常勤委員）

ラウンドテーブルの議論では、論文の著者が示した欧州版の概念フレームワークの草案について、支持はほとんどなかった。欧州版の概念フレームワークの必要性を疑問視する声が多かった上に、論文の著者が示した草案が非常に初期段階のものであり、その長所よりも短所が目立つものとなってしまっていたためである。

おわりに

フランスで行われるシンポジウムは、ここ数年、12 月にロンドンで行われる会計基準アドバイザリー・フォーラム（ASAF）会議の前後に開催されており、ASAF に参加している各国の会計基準設定主体の代表の参加率が高い。IASB の本部があるロンドンに近いために質量ともに充実したゲスト・スピーカーを呼ぶことができるのは羨ましい限りである。

今回のシンポジウムのメインテーマであるデジタリゼーションについては、その影響がよくわからないということが再三繰り返され、残念ながら議論は低調であった。数年後に議論すれば、また違った議論になる可能性があるという印象を受けた。